



公益財団法人成長科学協会 第26回公開シンポジウム

「子どもの豊かなコミュニケーションと心」

2013年6月8日(土) 13:30~16:30

UDXシアター (秋葉原UDXビル4階)

参加無料

- 演 者：志村 洋子 (埼玉大学教育学部乳幼児教育講座教授)
渡辺 富夫 (岡山県立大学情報工学部情報システム工学科教授)
- 指定討論：小林 登 (東京大学名誉教授 / 国立小児病院名誉院長)
- 司 会：宮尾 益知 (国立成育医療研究センターこころの診療部発達心理科医長)

INTRODUCTION

■ごあいさつ



公益財団法人成長科学協会
理事長：田中 敏章

成長科学協会は、昭和52年に成長ホルモン治療の適正事業を中心に設立され、ヒトの成長に関する科学の研究助成などを行ってきました。しかし身体的成長だけでなく、子どもの心の健全な発達も重要であるため、平成4年に心の発達研究委員会を発足させました。

その委員会(委員長：長田久雄)は毎年公開シンポジウムを企画し、これまで「心を伝えあう親子関係」「子どもの食生活と心の発達」「豊かな思春期への支援」など、いろいろなテーマで子どもの心の問題を取り上げてきました。今年26回目は「子どもの豊かなコミュニケーションと心」というテーマで、お二人の専門家の先生にご提言いただきます。

志村洋子先生には、乳児とのコミュニケーションにおいて音楽的な表出が果たす役割についてお話しいただきます。また渡辺富夫先生には、コミュニケーションにおける身体的リズムについての役割と、それをロボットなどに応用したお話しをしていただきます。

ヒトとヒトとのコミュニケーションで、心が通い合うための方策について、当委員会の小林登先生の指定討論を含めて、実りあるディスカッションができればと思っております。ご参加の皆様も積極的に発言していただければ幸いです。

■タイムスケジュール

日時：平成25年6月8日(土)

テーマ：「子どもの豊かなコミュニケーションと心」

13:30 開会あいさつ

13:35 「乳児期のコミュニケーションと音楽」
志村 洋子 (埼玉大学教育学部教授)

14:25 「人を引き込む身体的コミュニケーション技術」
渡辺 富夫 (岡山県立大学情報工学部教授)

15:15 〈休憩〉

15:30 指定討論

15:50 質疑応答・ディスカッション

16:30 閉会

■提 言

乳児期のコミュニケーションと音楽 / 志村 洋子

乳児が持つ優れた力が次々に明らかにされ始めた 1960 年代以降、「赤ちゃん研究」は素晴らしい進展を遂げてきた。コミュニケーションに関連する言語獲得を例にとると、胎生 5 カ月頃には聴覚器官がほぼ完成し、出生後の聴力は成人と同様であること、生後 1 年間までには周囲から聞こえるさまざまな話声の中から単語を切り出して聞き取り、音声の特徴と意味を自ら学びつつ、環境にある言語を獲得していくという驚嘆すべき作業をしていることが知られるようになった。

音声コミュニケーションの中で乳児が注聴する声は、大人がつい乳児にしてしまう話し方、すなわちゆっくりとした速度でイントネーションを大きくした話し方で、これは一般的にはマザリーズや対乳児音声 (Infant Directed Speech) とされるものである。この声の音響特徴には、「音の連なり」としてみると音楽的な要素が含まれていることから、最近では乳児音声上の音楽的表出について、コミュニケーションを視点にした研究も増えてきた。乳児が環境や文化に適応しながらお気に入りの音楽をつくると共に、喃語と平行して歌唱様の発声行動を活性化させていくこと等、音楽的な表出がコミュニケーションに果たす役割について報告する。

■提 言

人を引き込む身体的コミュニケーション技術 / 渡辺 富夫

人は、単に言葉だけでなく、うなずきや身振りなどの身体的リズムを共有して互いに引き込むことで円滑にコミュニケーションしている。この身体性の共有が一体感を生み、人とかかわりを実感させている。母子間インタラクションから成人間インタラクション、集団インタラクションの引き込みを合成的に解析して、うなずきや身振りなどの身体的リズムの引き込みをロボットや CG キャラクタのメディアに導入することで、対話者相互の身体性が共有され、一体感が実感できる「心が通う身体的コミュニケーションシステム E-COSMIC (Embodied Communication System for Mind Connection)」を研究開発し、身体的コミュニケーション技術を開発してきた。本技術は、身体を介してのコミュニケーションの解析理解と創出支援技術であり、高度メディア社会の生活情報技術として期待されている。とくに音声から豊かなコミュニケーション動作を自動生成する技術は、人とかかわるロボット・玩具、携帯電話・インターネット等の音声インタフェース、教育支援ソフトへの導入など、教育・福祉・エンタテインメントをはじめ、人とかかわる広範囲な応用が容易に可能であり、その応用事例も紹介する。

■演 者

志村 洋子 / しむら ようこ

東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業後、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。教育学博士。1992～1993 年には文部省内地研究員として東京大学医学部音声言語医学研究施設において「乳幼児の音声の音響学的研究」を、また 2000～2001 年には文部省在外研究員としてストックホルム大学音声言語研究施設において「マザリーズ音声に関する比較実験研究」を実施。現在、日本赤ちゃん学会常任理事。子ども学会理事。

■演 者

渡辺 富夫 / わたなべ とみお

1983 年東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻博士課程修了。工学博士。同年山形大学工学部情報工学科助手、1984 年同専任講師、1989 年同助教授、1993 年岡山県立大学情報工学部情報システム工学科教授。2009～2010 年度情報工学部長・研究科長。IEEE RO-MAN、the Best Paper Award、ヒューマンインタフェース学会論文賞、日本機械学会設計工学・システム部門業績賞等受賞。

■指定討論

小林 登 / こばやし のぼる

東京大学医学部医学科卒業。米・英に留学。'70～'84 年東京大学医学部小児科教授。'84～'87 年国立小児病院小児医療研究センター初代センター長、'87～'96 年国立小児病院院長 (定年退官)。退官後、甲南女子大学教授 (子ども学)、子どもの虹 (日本虐待・思春期問題) 情報研修センターセンター長、ベネッセ次世代教育研究所所長、CRN 所長などを歴任。臨時教育審議会、中央策事審議会など政府委員、日本小児科学会、日本アレルギー学会理事、国際小児科学会会長など学会役員を多数務める。

■司 会

宮尾 益知 / みやおますとも

国立成育医療研究センターこころの診療部発達心理科医長。徳島大学医学部卒業、自治医科大学小児科学教室助教授を経て、2002 年より現職。専門は小児精神神経疾患、発達障害、高次認知機能障害、てんかんなど。

主催 公益財団法人 成長科学協会
企画運営 心の発達研究委員会
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-1-16 NP-II ビル
TEL. 03-5805-5370